## 共創の場形成支援プログラム【地域共創分野】

## 拠点名称:森の価値変換を通じた、自律した豊かさの実現拠点

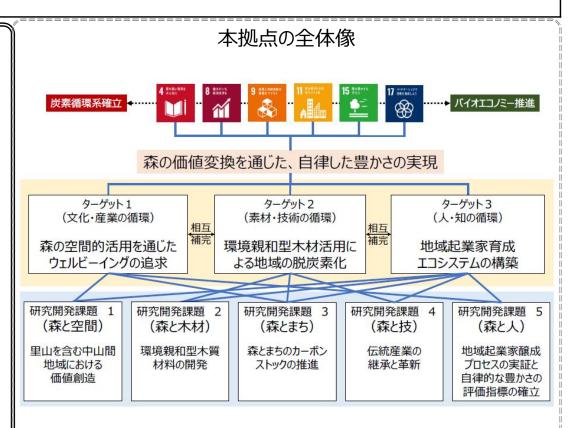


| 代表機関  | 秋田県立大学   | プロジェクトリーダー | 高田 克彦<br>秋田県立大学 木材高度加工研究所 教授                              |
|-------|--|------------|---|
| 幹事自治体 | 秋田県  | 幹事機関       | 国際教養大学、秋田公立美術大学<br>株式会社Q0、一般社団法人サステナブル経営推進機<br>構、株式会社秋田銀行 |
| 参画機関  | 京都大学、神戸大学、静岡大学、長野大学、森林研究・整備機構森林総合研究所<br>能代市、大館市、株式会社竹中工務店、トヨタ車体株式会社、株式会社日建設計、株式会社イトーキ、株式会社<br>長谷萬、三井ホーム株式会社、森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社、有限会社r-homeworks、詩の国秋<br>田株式会社 |            |   |

## プロジェクトの概要

日本社会は、世界に先駆けて人口減少と高齢化を経験しており、これに対応する新しい社会デザインが求められている。なかでも地方では1950年代から若者人口の流出が続いており、地域経済の縮退や担い手不足が深刻な問題となっているが、こうした「地域の縮退」を解消し、持続可能な地域社会を実現する仕組みは未だ提案されていない。我々は、こうした状況の原因を社会構造上における「循環の滞り」にあると捉えており、その結果、産業、技術、人の3つの要素の空洞化を引き起こしていると考える。

本提案はこのような問題意識に立ち、秋田県に豊富にある森林資源に着目し、森の価値変換を通じて循環の滞りを超越し、当該地域において自律的な豊かさが体現される社会の実現に挑む。このために、「文化・産業」、「素材・技術」、「人・知」の3領域において、森の恵みをフル活用するための研究開発と人材育成を展開する地域拠点を構築する。この拠点は、代表機関である秋田県立大学の「技術力」に国際教養大学の「教養力」と秋田公立美術大学の「デザインカ」を組み合わせ、さらには連携機関の「研究力」、自治体の「行政力」、民間企業の「社会実装力」を結集し、森の生態系サービスなどの既存価値を現代的価値に変換するとともに、今までにない新たな価値を創造することで、自律した豊かさが実現される拠点の形成を目指す。





## 森の価値変換を通じた、自律した豊かさの実現

ターゲット1 (文化・産業の循環)

森の空間的活用を通じた ウェルビーイングの追求

相互補完

ターゲット 2 (素材・技術の循環)

環境親和型木材活用による地域の脱炭素化

相互補完

ターゲット3 (人・知の循環)

地域起業家育成エコシステムの構築

研究開発課題 1 (森と空間)

里山を含む中山間 地域における 価値創造 研究開発課題 (森と木材)

環境親和型木質 材料の開発 研究開発課題 3 (森とまち)

森とまちのカーボン ストックの推進 研究開発課題 (森と技)

伝統産業の継承と革新

研究開発課題 5 (森と人)

地域起業家醸成 プロセスの実証と 自律的な豊かさの 評価指標の確立 拠点名称:森の価値変換を通じた、自律した豊かさの実現拠点

代表機関:秋田県立大学

プロジェクトリーダー:高田克彦(木材高度加工研究所教授)

| 研究開発課題1 「(                                       | 森と空間)里山を含む中山間地域における価値創造」の目標                          | 年度   |
|--|--|------|
| 中間目標1  | ①森林情報の整備   |      |
| 中間目標2  | ③文化的サービス事業の実施  |      |
| 中間目標3  | ②モデルの開発  |      |
| 中間目標4  | ①モデルの完成  |      |
| PoC達成目標  | 5年目 ①ゾーニングの実施、7年目② 計画の策定、③ 文化的サービスの定量的検証             |      |
| 最終目標   | ①森林エリアの機能評価の再定義、②中山間地域の土地利用・パイオマス利用計画の実施、③文化的サービスの普及 |      |
| 研究開発課題2 「(森と木村)環境親和型木質材料の開発」の目標                  |  |      |
| 中間目標1  | ②原料の検証   | 2025 |
| 中間目標2  | ①成形性の達成、②材料目標値、部品目標値の明確化                             |      |
| 中間目標3  | ①品質基準への適合、②量産品の性能検証                                  |      |
| 最終目標   | ①②環境親和型木質材料または原料の実用化                                 | 2032 |
| 研究開発課題3 「(森とまち)森とまちのカーポンストックの推進」の目標              |  |      |
| 中間目標1  | ①サテライトスペースのプログラム提案                                   | 2026 |
| 中間目標2  | ①森林情報の整備、②中心市街地の木質化改修提案、③部材の検証                       | 2027 |
| 中間目標3  | ①要因の抽出、③低コスト化  |      |
| 中間目標4  | ③マニュアルの整備  |      |
| 中間目標5  | ①施業と林型の妥当性検証   |      |
| 最終目標   | ①「森」の管理計画と施業体系の構築、②サテライトスペースの検証、③部材・工法の環境性能評価        |      |
| 研究開発課題4 「(森と技)伝統産業の検証と確信」の目標                     |  |      |
| 中間目標1  | 需給情報の共有の場の構築、木工プロダクトの開発・検証                           |      |
| 中間目標2  | 国際見本市への出展  | 2028 |
| PoC達成目標  | 7年目 総合型プラットフォームの実証                                   | 2030 |
| 最終目標   | 総合型プラットフォームの完成                                       | 2032 |
| 研究開発課題5 「(森と人)起業家精神醸成プロセスの実証と自律的な豊かさの評価指標の確立」の目標 |  |      |
| 中間目標1  | 地域起業家ネットワークの形成                                       |      |
| 中間目標2  | 地域起業家の育成プロセスの実証的な解明                                  | 2028 |
| 中間目標3  | 自律的な豊かさに関する評価指標の確立                                   |      |
| PoC達成目標  | 7年目 地域資源を活用した起業が生まれてくる地域社会の概念実証                      |      |
| 最終目標   | 地域起業家の育成エコシステム構築                                     | 2033 |

拠点名称:森の価値変換を通じた、自律した豊かさの実現拠点

代表機関:秋田県立大学

プロジェクトリーダー:高田克彦(木材高度加工研究所教授)

